

堆肥化資材の農耕地での生物的安全性診断手法の開発と  
有機農業推進地帯での検証

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構九州沖縄農業研究センター  
橋本 知義

2 研究期間

2004～2006 年度 (3 年間)

3 研究目的

堆肥化資材の微生物的安全性評価法及び資材投入が農耕地土壌生態系に及ぼす生物的影響評価法を開発し、有機農業推進体制の確立した営農現場で検証することにより、これら有機質資材還元に関わる農耕地の土壌管理法を確立する。

4 研究内容及び実施体制

- ① 有機性資源由来堆肥化過程の細菌群の動態と微生物的安全性評価 (佐賀大学、(有) 玄甫興業)  
外来有害微生物の堆肥中等の生残性を明らかにし、簡易な生物的安全性評価手法を確立する。
- ② 堆肥の迅速安全化技術の開発 ((有) 玄甫興業、佐賀大学)  
回転式有機廃棄物処理装置(特許出願中)を用いた堆肥原料の無害化技術を開発する。
- ③ 有機性資源による土壌生態系への攪乱影響評価指標の開発 ((独) 九州沖縄農業研究センター)  
繊毛虫等を利用し、土壌の養分状態や環境変化をより敏感に反映した評価指標を開発する。
- ④ 有機農業実践圃場における土壌環境管理法の確立 (宮崎県総合農業試験場、綾町有機農業開発センター、佐賀大学、(独) 九州沖縄農業研究センター)  
養分バランス適正化方策を明らかにするとともに、簡易な生物的安全性評価手法を有機農業推進現地圃場で検証する。

5 目標とする成果

堆肥等有機質資材の生物的安全性評価法が開発される。これにより、有機農業実践圃場における土壌生態系環境管理法が確立されることが期待される。